

# 語末漢字を判別するタグを付した逆順配列語彙集の試み

齊藤 康彦（北海道情報大学 経営情報学部）

『分類語彙表』に収録されている名詞の仲間について、その読みを語末から語頭に向かって50音順に配列した語彙集を編集した。本語彙集では、語末に現れる漢字1字、または、漢字1字とそれに続く仮名文字に着目し、それらの異同を判別する視覚的タグを付する。これによって、それを語末とする見出し語が多い漢字や、読みが同じでも異なる語末の漢字の検出が容易になる。本語彙集は、紙に印刷することを想定する。紙の書籍とすることで、ページをめくりながら複数のページを並行して眺めることができるので、目的とする語の前後にある周辺の語にも目を通すことができる。したがって、通常の50音順の辞書とは異なる周辺の語を認識する手段となる。

## Visual tags to distinguish Chinese characters used at the end of words arranged in order of inverse readings of words in a Japanese thesaurus

Yasuhiko Saito (Faculty of Business Administration and Information Science, Hokkaido Information University)

A list in which the words are arranged in the Japanese syllabary order of inverse readings of the words recorded in *Word List by Semantic Principles* is proposed. We focus on one Chinese character used at the end of each word. To each Chinese character, a visual tag for distinguishing between them is attached. The tags make it easy to detect specific Chinese characters used at the end of many words or different Chinese characters with the same readings used at the end of words. Since the word list is designed to be published as a book printed on paper, it allows us to check multiple pages in parallel while turning pages; thus, we can recognize words printed over several pages by means different from ordinary dictionaries.

### 1. はじめに

本研究では、国立国語研究所編『分類語彙表 増補改訂版』[1]の研究開発用データベースに登録されている体の類（名詞の仲間）の語について、その読みを語末から語頭に向かって50音順に配列した語彙集を編集した。読みを語頭から語末に向かって50音順に配列する通常の方法に対して、この配列方法は、「綴字逆順排列」、「尾音索引」、「逆引き」などの名称で呼ばれているが、ここでは、「逆順配列」と呼ぶことにする。逆順配列語彙集は、これまでも刊行されてきた。本研究で編集した語彙集では、語末に現れる漢字1字、あるいは、漢字1字とそれに続く仮名文字に着目し、それらが同じものか異なるものかを判別する視覚的なタグを付することで、従来の逆順配列語彙集にない特徴をもたせている。

本研究では、逆順配列語彙集を紙に印刷した書籍として刊行する予定である。電子辞書の普及によって、紙の辞書の必要性が低下しつつある。キーワードによる部分一致検索ができる電子辞書では、見出し語がどのように配列されているかも、あまり問題でなくなった。一方で、電子辞書に対する紙の辞書の優位性は、一覧性にあるといわれている。表示画面サイズが大きい電子辞書では、紙の辞書の1ページ分の情報を1画面に表示させることができるかもしれない。しかし、紙の辞書

では、ページをめくりながら複数のページを並行して眺めることができるが、電子辞書では難しい。この「複数のページを並行して眺める」使い方は、目的とする特定の語について調べるだけではなく、その語の前後に掲載されている周辺の語にも目を通すという使い方である。周辺の語を認識する上では、見出し語がどのような順序で掲載されているかが重要になる。紙に印刷した逆順配列語彙集の意義は、通常の50音順の辞書とは異なる周辺の語を認識する手段を、利用者に提供することにある。

### 2. これまでの逆順配列語彙集

明治期以降の日本語の語彙集（国語辞典、類義語辞典、シソーラスなど）は、50音順、または、意味カテゴリ別に見出し語が配列されているものがほとんどである。ここでの50音順とは、見出し語の読みを語頭から語末に向かって50音順に並べたものであり、調べたい語を検索する際の利便性を考えた配列である。しかし、読みを語末から語頭に向かって50音順に配列した逆順配列の語彙集もいくつか刊行されている。主なものに、『日本語尾音索引』[2]、『綴字逆順排列語構成による大言海分類語彙』[3]、『日本語逆引き辞典』[4]、『逆引き広辞苑』[5]などがある。

風間による[3]では、逆順配列の意義効用を列挙している。その中には、国語学や言語学の研究者

にとっての効用も含まれるが、以下は、一般の利用者にとっての実用的効用であるとしている。

- ある語（語形）で終る言葉にどんなものがあるかを知り、又、その同類にどんな言葉があるかを知ること。
- 物の名の聚合として、ある物の主要な同族の名を知る、いわば百科事彙名寄せ的なまとまりを得ること。
- 語の意味の類同・差異を知るきっかけとし、ひいてはそれを表現に役立てること。
- 一般に、表現・理解の主体として、語彙を豊富にし、日本語についての感覚を豊かにする資料とすること。

[3]では、逆順配列にしているだけではなく、次のような配列方法をとっている。すなわち、まず、見出し語全体を品詞に分け、各品詞を和語と漢語と外来語に分ける。さらに、品詞によっては、活用別などによって分ける。このようにして、カテゴリに分割した上で、各カテゴリの中を、逆順配列に見出し語を並べるが、単に読みの逆順に並べるのではなく、語末を構成する要素が同じ複数の見出し語をひとつのグループにまとめている。たとえば、最末尾が「あ」で終わる名詞の漢語として、図1の20語が収録されているが、ここに示すように、最末尾の漢字が同じものをまとめて配列する。このような配列方法には、以下のような効用があるとしている。

- 語彙の体系を、より具体的な形で把握すること。日本語の語彙の構造を、各類について、ある程度の量的認識において把握し、また、意味による分類と相まって、日本語の語彙の特色を考察するに資すること。
- 語構成を等しくする語彙のまとまりを通観し、同じ語構成要素を下部に持つ語にどんな語があるかを知ること。

ただ、こうした配列方法では、品詞、和語／漢語の別、語末を構成する要素などを考慮しながら検索する必要があるため、当該語を見つけ出すことがやや難しくなることは否めない。

これに対して、[4]と[5]は、純粋に読みによる逆順配列であるが、語末を構成する要素にも配慮している。すなわち、見出し語の配列とは別に、語末を構成する要素のうちの主要なものについて、該当する見出し語の一覧を、囲みの形で掲載する。したがって、見出し語の配列を分断して囲みが挿入されることになり、レイアウトの統一性が損なわれる結果となっている。

### 3. 本研究における逆順配列語彙集の特徴

本研究では、純粋に読みによる逆順配列とし、語末を構成する要素にも配慮する。しかし、囲み

リウア（流亞）  
インア（姻亞）

ア（啞）  
マウア（盲啞）  
ロウア（聾啞）  
インア（暗啞）

ア（聖）  
ハクア（白聖）  
-----  
シア（四阿）

キウア（旧痾）  
ヤウア（養痾）  
ビャウア（病痾）  
シュクア（宿痾）  
ピア（微痾）  
チンア（沈痾）

ボア（暮鴉）  
コンア（昏鴉）  
バンア（晩鴉）

-----  
セイア（井蛙）

-----  
ラウア（諒闇）

図1 『綴字逆順排列語構成による大言海分類語彙』における語の配列の例

Figure 1 The arrangement of words in the word list by Kazama

を挿入するのではなく、語末を構成する要素を判別するための視覚的なタグを見出し語ごとに付することで、レイアウトの不統一による見づらさの解消を図る。独自に考案したこのタグは、次のようなものである。

日本語の名詞では、その語の基本的な意味を表す語が語末にくることが多く、それらは、

A型：1文字以上の漢字

B型：1文字以上の漢字の後に仮名が続くもの

C型：漢字を含まないもの

のいずれかである。本研究では、C型のものを除外し、1文字以上の漢字のうちの最後の1字だけに着目して、A型の場合は、その漢字1字を抽出し、B型の場合は、その漢字1字とそれに続くすべての仮名文字を抽出する。これを語末漢字と呼ぶ。漢字1字に限定したのは、日本語の特性として、語末の漢字1字が語幹となつて、最も基本的な意味を表すことが多い、と仮定したからである。

本研究では、語末漢字を抽出した上で、同一の語末漢字に対して、同一の視覚的タグを付す。これを語末判別箋と呼ぶ（以下、判別箋）。判別箋の目的は、語末漢字の異同を判別しやすくすることである。異なる漢字を瞬時に視覚的に判別することはそれほど容易でないが、判別箋によって、語末漢字の異同が直感的に把握しやすくなる。

“Smallest Effective Difference”という情報デザインの原理がある[6].すなわち,視覚的な区別は,できるだけ微妙なものでありながら,明確で効果的でなければならない,とする.本研究でも,この原理に基づいて判別箋を設計した.

判別箋は,図2に示す24種類である.24種類しかないので,当然,異なる語末漢字に同じ判別箋が付けられる.しかし,同じ語末漢字に異なる判別箋が付けられることはない.

24種類の判別箋は,次のような記号の種類と長さの組合せによって定める.判別箋に使用する記号は,「\*」「+」「#」「=」の4種類である.これらは,形状が単純で相互に識別しやすいものを選んだ.判別箋の長さは,同じ記号を5個連ねた文字列を1単位とし,それを1,2,3,4,5,6単位連ねた6種類とする.この6種類にすることで,まず,最長の

6 \*\*\*\*\*  
と,その半分の  
3 \*\*\*\*\*

を識別し,次に,3の長さを3分割して,

1 \*\*\*\*\*  
2 \*\*\*\*\*

を識別し,次に,この1と2の長さを3の長さの後に加える(あるいは,最長の6の長さから1と2の長さを引く)ことで,

4 \*\*\*\*\*  
5 \*\*\*\*\*

を識別することができる.

判別箋に使用する記号や長さの種類を増やすと,判別できる語末漢字の種類が増えるが,直感的な判別が困難になる.逆に,判別箋の記号や長さの種類を減らすと,判別が容易になるが,判別できる語末漢字の種類が減る.したがって,判別箋の種類は,多すぎても少なすぎてもいけない.その点を考慮して,この24種類を定めた.

図3は,本語彙集の内容の例である.1ページ当たり60語の見出し語を掲載する.各行は,左から順に,読み,表記,語末漢字,判別箋の欄から構成され,1語についての情報のみを記載する.この単純なレイアウトは全ページにわたって統一されている.

#### 4. 逆順配列語彙集の編集プロセス

本研究では,独自に開発したコンピュータプログラムを用いて,逆順配列語彙集を自動生成した.本プログラムは,『分類語彙表 増補改訂版』のデータベース版を入力とする.ただし,体の類のうち,漢字を含むもの(語末がA型かB型のもの)のみを対象とし,そのほぼすべてである約48,000語を収録する.また,本プログラムを実行する前

```
<1> *****
<2> *****
<3> *****
<4> *****
<5> *****
<6> *****
<7> +++++
<8> +++++
<9> +++++
<10> +++++
<11> +++++
<12> +++++
<13> #####
<14> #####
<15> #####
<16> #####
<17> #####
<18> #####
<19> =====
<20> =====
<21> =====
<22> =====
<23> =====
<24> =====
```

図2 語末判別箋の種類

Figure 2 Tags for distinguishing Chinese characters used at the end of words

に,表計算ソフトウェアを用いて,本データベースに登録されている見出し語を,逆順の読みによる50音順に並べ替えておく.

本プログラムは,以下の手順で処理を行う.

- (1) 入力した見出し語から以下を除外する.
  - 体の類以外のもの
  - 見出し語の中に「・」または「/」を含むもの(複数の語を併記するものである)
  - 見出し語の中に「-」を含むもの(「-」は,その語が接辞あるいは造語成分であることを示す)
  - 見出し語の中に「…」を含むもの(「…」は,その語が句を形成するのに用いられることを示す)
  - 読みの中に「・」を含むもの(複数の読みを併記するものである)
  - 見出し語の文字数が10以上のもの(文字数の多い見出し語が含まれていると,その語のためにページレイアウトの見やすさが損なわれるので,それを避けるための便宜的な方策であるが,文字数が10以上であるために除外したものは,11語しかない)
- (2) 処理の対象とする見出し語から語末漢字を抽出する.このとき,語末漢字が存在しない(漢字を含まない)見出し語を除外する.また,同一の語末漢字が複数の見出し語で使われている場合は,それらを単一の語末漢字と

せい	正	正	*****
せい	性	性	*****
せい	精	精	*****
せい	静	静	++++
せい	世	世	+++++
せい	西	西	*****
せい	背	背	+++++
せい	生	生	+++++
せい	勢	勢	+++++
せい	政	政	+++++
せい	制	制	####
せい	姓	姓	#####
せい	製	製	#####
ぜい	勢	勢	+++++
ぜい	税	税	#####
ぜい	餐	餐	#####
あせい	亜聖	聖	#####
きょくがくあせい	曲学阿世	世	+++++
あるふあせい	α星	星	#####
いせい	異姓	姓	#####
いせい	異性	性	*****
いせい	威勢	勢	+++++
いせい	以西	西	*****
いせい	濫制	制	####
いせい	為政	政	+++++
いせい	道精	精	*****
えいせい	永世	世	+++++
えいせい	衛生	生	+++++
えいせい	衛星	星	#####
じんこうえいせい	人工衛星	星	#####
こうしゅうえいせい	公衆衛生	生	+++++
きしょうえいせい	氣象衛星	星	#####
せいしえいせい	静止衛星	星	#####
ふえいせい	不衛生	生	+++++
ほけんえいせい	保健衛生	生	+++++
せいしんえいせい	精神衛生	生	+++++
つうしんえいせい	通信衛星	星	#####
かいせい	改正	正	*****
かいせい	改姓	姓	#####
かいせい	快晴	晴	=====
かいせい	回生	生	+++++
がいせい	蓋世	世	+++++
がいせい	慨世	世	+++++
がいせい	外征	征	=====
がいせい	外政	政	+++++
きしかいせい	起死回生	生	+++++
しゃかいせい	社会性	性	*****
ばつざんがいせい	拔山蓋世	世	+++++
とくいせい	特異性	性	*****
けいせい	形成	成	=====

図3 語末の読みが「せい」の語の一部  
Figure 3 An excerpt from the list of words  
(Each word ends with “せい”)

- して扱い、重複して抽出しない。
- (3) 抽出した語末漢字に、図2の<1>から<24>までの判別箋を順に機械的に割り当てていき、<24>を割り当てたら<1>に戻る。したがって、近い位置に掲載されている異なる語末漢字の見出し語に、同一の判別箋が割り当てられることもある。また、それを語末漢字とする見出し語が1語のみの場合は、判別箋を割り当てずに、その見出し語の判別箋の欄を空白にする。
- (4) 処理の対象とする各見出し語について、入力した順に、逆順の読み、見出し語の表記、語末漢字、判別箋をファイルに出力する。本ファイルが逆順配列語彙集である。

### 5. 語末漢字の概要

語末漢字として、5,371個が抽出された。このうち、それを語末漢字とする見出し語が1語だけのものが2,869個、2語以上あるものが2,502個

もの	者	者	+++++
もの	物	物	#####
いもの	飼物	物	#####
かゝるもの	買物	物	#####
つかゝるもの	使物	物	#####
おつかゝるもの	お遣物	物	#####
やつかゝるもの	厄介者	者	+++++
まがゝるもの	まがい物	物	#####
わがゝるもの	若い者	者	+++++
くゝるもの	食い物	物	#####
かゝるもの	囲い者	者	+++++
すゝるもの	吸い物	物	#####
うたゝるもの	誦い物	物	#####
ちようだいもの	ちようだい物	物	#####
じだいもの	時代物	物	#####
ねんだいもの	年代物	物	#####
ぬゝるもの	縫い物	物	#####
おもゝるもの	思い者	者	+++++
あらゝるもの	洗い物	物	#####
とらゝるもの	到来物	物	#####
もらゝるもの	もらい物	物	#####
わらゝるもの	笑い者	者	+++++
ひろゝるもの	拾い物	物	#####
いわゝるもの	祝い物	物	#####
りこゝるもの	利口者	者	+++++
ほうつうもの	ハウツー物	物	#####
ほうどうもの	放蕩者	者	+++++
むぼうもの	無法者	者	+++++
かゝるちゆうもの	懐中物	物	#####
じようもの	上物	物	#####
おくびようもの	臆病者	者	+++++
えもの	獲物	物	#####
えもの	得物	物	#####
あえもの	あえ物	物	#####
かんがえもの	考え物	物	#####
そえもの	添え物	物	#####
ひとえもの	ひとえ物	物	#####
そなえもの	供え物	物	#####
あおももの	青物	物	#####
おおもの	大物	物	#####
しおももの	塩物	物	#####
いかもの	いか物	物	#####
したたかもの	したたか者	者	+++++
わかもの	若者	者	+++++
わがもの	我が物	物	#####
ぜんかもの	前科者	者	+++++
きもの	着物	物	#####
いきもの	生き物	物	#####
おきもの	置き物	物	#####
かきもの	書き物	物	#####

図4 語末の読みが「もの」の語の一部  
Figure 4 An excerpt from the list of words  
(Each word ends with “もの”)

であった。それを語末漢字とする見出し語が2語以上あるもののうち、A型のものが約8割、B型のものが約2割であった。

B型のもは、動詞に相当する漢字1字が訓読みで語幹となり、語尾として送り仮名が続く形が多い。語末を漢字で表記できるのに、敢えて仮名で表記している語もあった。たとえば、「火ばし」、「手なべ」、「暗やみ」、「茶わん」などである。それらを漢字に書き換えたり、漢字表記による見出し語として追加したりすることも考えられるが、分類語彙表と対応付けられるように配慮して、元のデータのままで処理することにした。

それを語末漢字とする見出し語数が多い語末漢字には、「物」(403)、「人」(402)、「学」(374)、「者」(347)、「子」(262)、「日」(231)、「地」(227)、「屋」(203)、「手」(196)、「語」(195)、「色」(193)、「家」(188)、「力」(187)、「車」(182)、「目」(180)などがある(括弧内は見出し語数)。

## 6. 逆順配列語彙集の使用法

判別箋の基本的な用途は、以下である。

(a) それを語末漢字とする見出し語が多い語末漢字の検出

(b) 読みが同じでも異なる語末漢字の検出

まず、(a)の用途の例を示す。見出し語の数が多い語末漢字「物」には、「ぶつ」「もつ」「もの」という読みがある。「もの」と読む見出し語が最も多く、次いで、「ぶつ」がその半分強で、「もつ」と読むものははるかに少ない。読みが「もの」である他の語末漢字に「者」があり、「者」を語末漢字とする見出し語は、「物」よりは少ないが、極端に少ない訳ではない。読みが「ぶつ」である他の語末漢字に「仏」があるが、「仏」を語末漢字とする見出し語は少ない。読みが「もつ」である他の語末漢字はない。文章にすれば、このように説明される内容が、紙に印刷した逆順配列語彙集では、判別箋によって、視覚的・直感的に把握できる。図4は、読みが「もの」である語末漢字の見出し語の一部である。

次に、(b)の用途の例を示す。読みが「せい」である語末漢字は多数あり、それらを語末漢字とする見出し語は800語ある。図3は、その一部である。多数の語末漢字のひとつひとつを判別することは容易でないが、判別箋によって、同じ語末漢字の見出し語の掲載箇所を見つけやすくなる。また、多様な語末漢字が入り乱れる分布状況が、視覚的に表現されている。なお、判別箋は24種類しかないので、異なる語末漢字に同じ判別箋が割り当てられることもある。図3では、「精」と「西」に割り当てられた判別箋が同じである。

これらの基本的な用途に加えて、次のような使い方ができる。判別箋は、A型の語末漢字の場合、語末の漢字1字のみを判別するものであるが、語末の漢字2字が同じ見出し語を検出する上でも有効である。図5は、読みが「きょう」または「ぎょう」である語末漢字の見出し語の一部である。この中で、同一の判別箋が、他の判別箋によって中断されずに比較的長く連続する箇所に注目すると、語末漢字が「業」であるが、「業」の前の漢字のほとんどが「産」であることが分かる。つまり、それらの見出し語は、語末の漢字2字が「産業」である。このように、語末の漢字2字が同じ場合は、その2字に対応する読みの文字数が多くなるので、他の読みに中断される可能性が低くなる。したがって、そのような判別箋の並び方から、語末の漢字2字が同じ見出し語を検出できることがある。

それを語末漢字とする見出し語が1語のみの場合は、その見出し語の判別箋の欄が空白になる。このことから、判別箋の欄が空白である見出し語

を探すような使い方ができる。全体的な傾向として、それを語末漢字とする見出し語が1語のみのものは、漢字の後に仮名が続くB型に多いが、A型の場合には、その漢字で終わる語の数が少ないという意味で、日常生活の中で目にする機会が相対的に多くない見出し語であることがある。たとえば、「狭隘」、「反芻」、「披擢」、「輦蹙」、「剽窃」、「戦慄」、「終焉」、「乾坤」などである。図6は、読みが「こん」または「ごん」である語末漢字の見出し語の一部である。判別箋の付けられていない見出し語が「乾坤」と「貧困」であることが直ちに分かる。「乾坤」は馴染みの薄い語であるが、「貧困」はそうではないだろう。しかし、「困」という特に珍しくもない漢字で終わる語が少ないということは、それなりに意外性のある発見ではなかるか。判別箋の欄が空白である見出し語を探すことは、そのような発見の機会にもなる。

また、やや特殊な使い方であるが、詩作などにおいて、本語彙集を参照しながら脚韻を考えることができる。正岡子規による『韻さぐり』[7]は、こうした用途のために書かれた逆順配列語彙集の一種である[8]。たとえば、以下の子規の詩の一節における各行の末尾の音は、「上」の「え」、「声」の「え」、「なる」の「る」、「よる」の「る」、「実に」の「に」、「何」の「に」、「しるしかと」の「と」、「音」の「と」となっており、2行1組で「え」、「る」、「に」、「と」と韻を踏んでいる。

栈橋長う海の上、  
あわただしげにわめく声、  
船今出づと彼方なる、  
蒸気近く人のよる。

旅路に馴れぬ者は実に、  
水夫のあらし言葉、何、  
危急を告ぐるしるしかと、  
轟く胸に波の音。

押韻は、西洋詩で広く用いられる技法である。西洋語には、漢字と仮名のような区別がないが、日本語の場合は、音（読み）が同じで異なる漢字を用いた韻の可能性はある。そのような韻を探るために、本語彙集を使うことができる。

同一ページ中で異なる語末漢字に同じ判別箋が割り当てられている見出し語を見つけ出す、というゲーム感覚のややくだけた使い方がある。異なる語末漢字に同じ判別箋が割り当てられることは、判別箋の欠点である。しかし、それを逆手にとって、欠点が顕著である箇所（図3における「精」と「西」、図5における「暁」と「仰」や「行」と「峽」など）を探すのである。そのような探索は、これまで関心のなかった語に注意を向

ける契機となりえるので、本語彙集の利用者の語彙力の向上につながるものと考えられる。

### 7. おわりに

本研究では、紙に印刷することを想定した逆順配列語彙集を編集した。本語彙集は、見出し語の語末に使用される漢字の異同を視覚的に判別しやすくするためのタグである判別箋を付す。

判別箋には、いくつかの効用が想定されるが、実際にどれほど有効であるかは、十分に確認されていない。今後は、自ら使ってみる、そして、多くの人に使ってもらうことを通じて、本語彙集を評価していきたいと考えている。

本語彙集は、分類語彙表のデータベースを入力して編集しており、分類語彙表と照合しながら使うことができる。しかし、他の国語辞典などのデータを入力すれば、それらと併用できる語彙集にすることも可能である。本語彙集の編集プロセスは自動化されているので、電子化された国語辞典やシソーラスがあれば、それらに対応した逆順配列語彙集が容易に編集できる。そこで、他のデータベースに基づく語彙集の編集も試みたい。

### 参考文献

- [1] 国立国語研究所：分類語彙表 増補改訂版，大日本図書（2004）。
- [2] 田島毓堂，丹羽一彌：日本語尾音索引—現代語篇一，笠間書院（1978）。
- [3] 風間力三：綴字逆順排列語構成による大言海 分類語彙，富山房（1979）。
- [4] 北原保雄：日本語逆引き辞典，大修館書店（1990）。
- [5] 岩波書店辞典編集部：逆引き広辞苑，岩波書店（1992）。
- [6] Tufte, E.: Visual Explanations, Graphics Press(1997)。
- [7] 正岡子規：韻さぐり，菜根出版（1971）。
- [8] 田島毓堂：なぜ比較語彙研究か，名古屋大学文学部研究論集（文学），Vol.45, pp.93-106（1999）。

こんぎょう	今晚	晚	####
ごんぎょう	勤行	行	++++
さんぎょう	山峽	峽	++++
さんぎょう	賛仰	仰	####
さんぎょう	三業	業	=====
さんぎょう	産業	業	=====
さんぎょう	蚕業	業	=====
さんぎょう	残業	業	=====
しるばあさんぎょう	シルバー産業	業	=====
すいさんぎょう	水産業	業	=====
せいさんぎょう	生産業	業	=====
ふどうさんぎょう	不動産業	業	=====
じょうほうさんぎょう	情報産業	業	=====
がいしょくさんぎょう	外食産業	業	=====
だいちさんぎょう	第一次産業	業	=====
だいにじさんぎょう	第二次産業	業	=====
だいにじさんぎょう	第三次産業	業	=====
さあびすさんぎょう	サービス残業	業	=====
じばさんぎょう	地場産業	業	=====
しんきょう	進境	境	*****
しんきょう	心境	境	*****
しんきょう	信教	教	*****
しんきょう	新教	教	*****
しんきょう	神鏡	鏡	*****
しんきょう	神橋	橋	*****
しんきょう	心経	経	*****
たしんきょう	多神教	教	*****
いつしんきょう	一神教	教	*****
せんきょう	戦況	況	*****
せんきょう	宣教	教	*****

図5 語末の読みが「きょう」「ぎょう」の語の一部  
Figure 5 An excerpt from the list of words (Each word ends with “きょう” or “ぎょう”)

にこん	二言	言	++++
はこん	破婚	婚	#####
みこん	未墾	墾	#####
みこん	未婚	婚	#####
むこん	無根	根	*****
むこん	無言	言	++++
じつむこん	事実無根	根	*****
じゆこん	呪禁	禁	*****
きょこん	虚根	根	*****
きょこん	許婚	婚	#####
しょこん	初婚	婚	#####
りこん	離婚	婚	#####
えんこん	怨恨	恨	#####
けんこん	乾坤	坤	#####
げんこん	現今	今	#####
しんこん	身魂	魂	*****
しんこん	心魂	魂	*****
しんこん	新婚	婚	#####
しんこん	真言	言	++++
ぜんこん	善根	根	*****
だんこん	彈痕	痕	====
だんこん	男根	根	*****
ちんこん	鎮魂	魂	*****
でんこん	伝言	言	++++
うんどんこん	運鈍根	根	*****
ばんこん	晩婚	婚	#####
ひんこん	貧困	困	#####
ほんこん	香港	港	*****
もんこん	文言	言	++++
らんこん	乱婚	婚	#####

図6 語末の読みが「こん」「ごん」の語の一部  
Figure 6 An excerpt from the list of words (Each word ends with “こん” or “ごん”)